



# こと言の葉 kotonoha

築館高等学校 図書館だより  
発行：令和 元年10月1日  
文責：司書 佐藤

朝晩だいぶ冷え込むようになってきました。みなさん体調は崩れていませんか？じっくりと読書をするにはとても良い季節となりました。発売される本をチェックしながら本を購入しているので、新しい本が図書館前に並べられています。ぜひチェックしてみてください！



## 令和元年度 校内読書感想文コンクール入賞者

みなさん、今年はどんな本を読みましたか？面白かったという本に出会えたでしょうか？ 感想文という大変だなと思う人も多いかと思いますが、本を読んで想像したり、感動したり、自分の気持ちを言葉で表すことはとても素敵なことです。たくさん本と出会ってくださいね。今年度の入賞者を紹介します。

【最優秀賞】 (県審査へ)	努力すること	2年2組 曾根 愛 (羊と鋼の森 宮下奈都 著)
【優秀賞】	「ツナグ」を読んで	2年1組 狩野 莉々 (ツナグ 辻村深月 著)
	「人間失格」から学ぶこと	2年3組 千葉 菜摘 (人間失格 太宰治 著)
【佳作】	心の色	2年4組 相澤 空南 (カラフル 森絵都 著)
	努力の結晶	1年1組 高橋 彩夏 (ラストシュート 小宮良之 著)
	よるのばけもの	1年2組 堀江 史翔 (よるのばけもの 住野よる 著)
	読書の本当の楽しさ	1年3組 三浦 和真 (羊と鋼の森 宮下奈都 著)
	生きること	1年4組 鈴木 七海 (10年後、夜明けを待つ僕たちへ 小春りん 著)

みなさん入賞  
おめでとう  
ございます！



★入賞者には賞状と副賞が贈られます。表彰は12月に行います。

※ 読書感想画の作品も募集しています。本を読んで感じたことを絵で表現してみませんか？ 詳しくは図書館司書 佐藤まで。

# 令和元年度 芸術鑑賞会は「狂言」です!



10月17日(木)に芸術鑑賞会が行われます。当日を迎える前に、「狂言」とはどのようなものなのか、少しでも知識があると、より楽しめると思います。簡単に今回鑑賞する「狂言」について紹介します。

## 【狂言の歴史】

発生は南北朝時代とされますが、作者や具体的な成立事情は明らかではありません。しかし、平安時代に興った「猿楽」の即興的で滑稽な要素が、徐々に洗練され、演技としての形態を整えた段階が狂言の誕生と考えられます。中世の末期には、流動的なセリフがまとめられ、現代の狂言に通じる内容に定着します。江戸時代には武家の式楽として幕藩体制に組み込まれますが、明治時代になると武家階級が没落し、収入の道を絶たれてしまいます。和泉流と大蔵流が再興し、現代ではこの両派が狂言を継承しています。

## 【狂言の特徴】

- セリフは現代語の母体である中世口語を基調とし、庶民の生活を力強く表現した喜劇。
- 舞台装置・道具は非常に簡略化され、扇子などの限られた小道具が、重要な演出効果として様々な物に表現される。
- 戸を開ける音などの音響効果は装置などに一切頼らず、全て演者の発声によって表現される。

## 【今年度鑑賞する狂言】

- 蝸牛・・・修行を終えた山伏が竹やぶの中で休んでいると、太郎冠者が現れます。彼は主人の命令で、かたつむりを取ってくるようにいわれたのですが、実はかたつむりを知りません。休んでいた山伏をかたつむりと勘違いをした太郎冠者は一緒に主人のもとへ来てほしいと頼むのですが……。
- 棒縛・・・自分の留守のすきに家来の太郎冠者と次郎冠者の二人が酒を盗み飲むので主人が一計を案じます。太郎冠者を棒に縛り付け、次郎冠者は後ろ手に縛り、主人はようやく外出します。縛られたとはいえ、二人は酒が飲みたくなり、不自由な格好のまま酒蔵に入りますが……。

生徒体験コーナーもあります。お楽しみに♪



芸術鑑賞会は普段なかなか観ることができないものを身近で感じるチャンスです!特徴やあらすじがわかっていると、楽しみ方も違ってきます。今回は簡単に紹介しましたので、自分でもぜひ、調べてみてください。

色々な機会にアンテナを高くしておくと、新しい発見や今後につながる知識が得られるかもしれません。

※ 当日の流れや、注意事項などはクラスに掲示します。よく確認して行動してください。

